
と化した俺が女体化した友達とゲームの世界で奴隷ハーレム組んでオワタ式で冒険しに逝くけ

低学歴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生でチートと化した俺が女体化した友達とゲームの世界で奴隷ハーレム組んでオワタ式で冒険しに逝くけど質問ある？

【Nコード】

N0941BA

【作者名】

低学歴

【あらすじ】

タイトルが長すぎる？知ったこっちゃねえ！

ある日、体感型ゲームを買い、プレイしていた俺と友達。気がつくとき……死んでしまっていた！

神様から、死んだ理由がアホすぎるということで転生させてもらえました。

チート能力を俺に与え、友達はゲームキャラの容姿を受け継いでいた。

しかし、神様はとんでもない条件を出しやがった。

「一発ダメージ受けたら死ぬから」

転生先は……さっき死んだゲームじゃねえか！

なに？ 奴隷？

いいね、この美少女たちをもらおうか！

最初こそ大人しかった彼女たちだが、俺が「一発で死ぬ」と知ると、素で対応してきやがる！

足舐めろじゃねえよ、立場逆転してんじゃねえか！

体感ゲーム始めました（冷やし中華始めました的なニュアンスで）

まずはタイトルについて触れようか。

うん、そうなんだ。

これはテンプレを詰め込みすぎて、いったい何がしたいのかわからなくなった……

いわば、神々の遊び？ という奴なんだ。

いまさら謝って許してもらおうとは思っていない。

けれど、君はこのタイトルを見た時、こっ「ヤリスギ」みたいな物を感じたと思うんだ。

一撃で死んでしまうという荒んだ世界で生きていく主人公を見ていても、その気持ちを忘れないでほしい。

じゃあ、まずは質問を聞こうか。

……。

超立体感型ゲーム「俺の勇者がこんなになめらかに動くわけがない」を購入した、俺「北田広太」と、友達「長谷圭吾」。

二つのダンボールが、パンパンに膨れているのを見て、俺たちは顔がほころんだ。

「なあ、広太。これ、どういう風に動くんだろうな？」

いつもは冷静な圭吾が、足踏みしながら訊ねてくる。

もちろん、俺もバタバタと足踏みしながら答える。

「きまつてんだろ。あれだよ、あれ、ナメクジ？」

「なめらかどころのレベルじゃねーよ!!!」

的確なツツコミに満足して、俺は早速ダンボールを開けた。開けたと同時に、ゲームがドサツと盛り上がり、溢れてくる。隣に目を向けると、圭吾の方はすでに腕に手袋をハメていた。

それにならい、俺も着けていく。

足は、長靴を素足で履かされたような感触の靴下だった。その上に更に靴を履く。

それだけで、狭い部屋の中をバツク転するほど興奮していた。もちろん出来るはずもないので、床に頭から激突してもんどりうっていたが。

圭吾は、そんな俺に冷ややかな視線を送りつつも、頭に取り付ける装置みたいなのをかぶった。

頭の三倍はありそうな大きさに、丸いフォルム、真っ黒なデザインが光る物だった。

「パソコンに繋がればいいのか？」

首が折れるんじゃないか、と考えてしまっほほどデカイ装置をかぶりながら、圭吾は言った。

俺はそれに頷く。

「なあ、どうなんだ？」

更に圭吾が言ってきた。

しつこい。

また首を縦に落とす。

「いや答えるよ!!!」

「だから頷いてんだろ!？」

「見えるわけねーことぐらい想像しとけよ!!」

「だったら千里眼ぐらい持っとけ!!」

「無茶言つなよ!?!」

宇宙飛行士のヘルメット（のような物）をかぶった男と、頭に夕ンコブを付け、手足に変な手袋足袋を履いている男が喧嘩するとう、かなりシュールな光景になっていた。

とりあえず、俺も宇宙飛行士のヘルメット（のような物）をかぶる。

「おい」

圭吾が、少し苛立った声で言った。

「なに?」

「ちよつと、パソコンに繋げてくんね?」

「あー、俺もかぶってるから無理」

「なんでだよ!? ええ、なんでかぶってんのお前まで!?!」

「いやあ、小さい頃の夢が飛行機のパイロットでさ」

「全然関係ないだろ!!」

「こつという服装に憧れてたんだよねえ」

「お前、全世界のパイロットに謝ってこいよ!!」

「じゃあ……行こうか、ハネムーン」

「ツッコミきれねえよ!!」

「あ、分かんない? ハネムーン、月^{ムーン}で、今宇宙飛行士の格好みたいじゃん?」

「分からなくもないけど一旦黙ろうか……?」

さんざん圭吾を小馬鹿にしたところで、ようやくヘルメットを脱いだ。

俺は清々しい顔をして、窓から見える青空を覗く。

「……やっと帰ってきた。俺の故郷、地球」

「さっさとしろ馬鹿!!」

そろそろ圭吾が、ヘルメットをかぶったまま殴りかかってきそうなので、パソコンを立ち上げた。

正直、後ろでデカくて真っ黒なヘルメットをかぶった男がうるちよろしているというのは、かなり不安だ。

というか、不審者だ。

外から家の中を簡単に覗ける構造になっていたら、今頃警察が来ているところだろう。

二代のパソコンに、付属のケーブルを差してゲームと繋げる。

更に、自分たちに着けている手袋などから伸びているコードも繋げて、準備完了だ。

「起動、っと」

「うほっ!」

圭吾が、なにやら気持ちの悪い声をあげた。

さっそく俺もヘルメットを着けてみる。

あれ、なんにも見えない。

「圭吾、なんにも見えないんだけど、これどうなったんの」

「おま、逆だろソレ」

「あっ」

クルツ、とヘルメットを180度回転させると、目を細めてしま
うほど眩しい光が俺の視界を射た。

目が慣れてくると、目の前にはゲーム画面が広がっていた。

タイトルが浮かんできて、下に制作日時などが細かく書かれている。

グラフィックも細かく綺麗で、完全にリアル世界だった。

「うほおおおおお！」

歓喜の声をあげる。

隣から「キモッ」という言葉が聞こえた気がするが、気のせいだ。手を上げてみると、ゲーム画面にCG化された俺の腕が出現して、動いている。

「おお！」

次に足を上げてみると、これもゲーム画面に出てきた。

「おおお！」

スタート、と書かれた部分をCG化された指でタッチすると、セーブデータを確認する画面へと映り変わる。

「おおおお！！！」

「うっせえ黙れ！！！」

友人の怒号に絶句しつつも、その臨場感に俺はドッキリとはまり込んでいた。

新規データをタッチ。

すると、男のキャラクターが上半身裸、下半身はブリーフ一枚で現れた。

名前欄には「無職のプー」と書かれている。

「なんでプー!?!」

「無職ってなんだよ! 明らかにゲーム買った奴に喧嘩売ってんじやねーか!?!」

俺たちは健全な男子大学生です。

「圭吾、お前キャラクターどうすんの?」

顔メイクなどをいろいろいじりながら、聞いてみた。

「ああ、女の子にするけど?」

「止めとけて……。声でどうせバレるんだから」

そう。これは音声対応だ。

やり方によっては、上手く声を無くし、チャットのみも出来るが、ネカマ防止用ということで普通では外せない……らしい。説明書に書いてた。

……説明書の最後のページに「女の子だと思ってたらオッサンだった。絶対に許さない許さない許さない」と、呪詛よろしく書き連ねられていたのは目の錯覚だろう。

「決めたか?」

「おう、決めた」

「サーバーどうする?」

「んー、2の3にしようぜ」

「キャラの名前は? こっちは『圭子ちゃん』だけど」

「うわあ」

「なにその反応」

「大丈夫。引かないよ、俺は」

「分かったから。んでお前、名前は?」

「『暗黒より深淵を覗き闇に身を委ね光を求めながらも避ける強き力を持ちながらも弱い心を持つ孤高の狩人ワールドデスライダーアームズ』

「痛い！！ 中高と部活に入ってたクセに、いきなり作詞作曲をやりだして、自分ポーカーで他のメンバー募集してる奴並みに痛い！！」

「相当じゃねーか！」

あんまりすぎる例えにツツコミながらも、俺はゲームを始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0941ba/>

転生でチートと化した俺が女体化した友達とゲームの世界で奴隷ハーレム組ん

2012年1月2日05時50分発行